進捗報告書

● 提　出　日　：2022 年　10 月　28 日
● 事　業　名　：障害児等の体験格差解消事業
● 資金分配団体　：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1. 支援地域において、障害児や児童養護施設等の子供が、水辺の自然体験に参加できる状態となる。	①実行団体が水辺の自然体験活動を実施する回数 ②参加する学校・団体の数 ③参加する子供の人数"	①平均 16 回 ② 平均 8 団体。別途個人参加あり。 ③400 人(延べ 2200 人)	2023 年 2 月	集計期間 2022 年 4 月 1 日から 10 月 31 日まで ① 平均 31 回(総回数 311 回)※里山体験等を含む。 ② 平均 11 回（69 校、43 団体） ③ 障害児等の対象の子供 742 人、健常児 2,163 人（延べ 1,623 人、健常児 4,399 人）	1

２．支援地域において、障害児やひとり親家庭等の保護者が、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を見学した保護者の数 ②水辺の自然体験を見学した保護者の満足度	① 支援対象地域全体で 500 人(初期値から 3.5 倍) ②満足度の向上（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月	集計期間 2022 年 4 月 1 日から 10 月 31 日まで ① 見学 187 人（延べ 325 人） 体験 218 人（延べ 350 人） ② 集計・分析中。 結果は 1 月中旬を予定	2
３．支援地域において、障害児支援施設や児童養護施設、ひとり親支援団体等のスタッフが、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を体験したスタッフの数 ②水辺の自然体験を体験したスタッフの満足度	① 支援対象地域全体で 550 人 ②満足度の向上（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月	集計期間 2022 年 4 月 1 日から 10 月 31 日まで ① 体験 243 人、延べ 1,292 人 見学 12 人、延べ 20 人 ② 現在調査中 結果は 1 月中旬を予定	2
４．支援地域において、学校や団体等が、水辺の自然体験に連携・協力・支援する状態となる。	①連携・協力・支援する学校・団体等の数 ②水辺の自然体験推進団体以外で連携・協力・支援する学校・団体等の数 ③水辺の自然体験を見学した学校・団体等の数	① 支援対象地域全体で 60 事業者（初期値の 2 倍） ②支援対象地域全体で 60 事業者（初期値の 2 倍） ③支援対象地域全体で 20 事業者（初期値の 2 倍）	2023 年 2 月	集計期間 2022 年 4 月 1 日から 10 月 31 日まで ① 112 事業者（学校 69 校、団体 43 団体） ② 49 事業者（47 団体、2 校） ③ 37 事業者（10 校、27 団体）	2

５.支援地域において、新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、障害児や児童養護染む施設の子供たちが安全に水辺の自然体験に参加できる状態になる。	①器材・設備等の拡充及び必要な人材を確保することで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態	①支援対象地域全体で新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じて事業を実施している状態	2022 年 11 月	集計期間 2022 年 4 月 1 日から 10 月 31 日まで ① 総実施回数 311 回 を数え、コロナ対策を実施しながら各団体とも活動を	1

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1. 支援地域において、実行団体間や連携協力団体とのネットワークが深まる。	①実行団体間と定期的なコミュニケーションがある連携協力団体との状態 ②資金分配団体と実行団体間の事例等を共有する会議等が開催される状態	①事業を通じて頻繁に連絡を取る状態になる ②支援対象地域全体で年 2 回以上の開催	2023 年 2 月	① 実行団体間での連絡は余りないが、各地の実行団体と連携協力団体とのコミュニケーションは確実増えており、4 年目以降の継続に向けた取り組みが活発化している。状態。 ② 「実行団体全体会議」を年平均 2 回以上開催。2020 年度 1 回、2021 年度 2 回、2022 年度は 3 回開催予定。 ・1 回目(リモート) 2022 年 7 月 5 日済み ・2 回目(リモート) 2022 年 10 月 4 日済み ・3 回目 2023 年 2 月 16 日-17 日を対面実施の予定	2

2. 支援地域において、資金分配団体により、実行団体への様々なサポートが行われる。	①情報共有会議の開催やサポートの回数等、実行団体に行った支援の回数	①資金分配団体から実行団体への電話・メール・テレビ会議等での月 2 回以上の助言を含め、現地でのプログラム等に対する助言などを行う。年に 2 回。	2023 年 2 月	① 実行団体と資金分配団体とは、月に 1 回の定期連絡のほか提出書類や資金計画についての相談、休眠預金事業に関する打合せ等で月に複数回の連絡を取っている。 また、現地活動の視察を通じ、注意点や気づき、工夫に関するサポートも、各団体平均 2～3 か月に 1 回程度の訪問を通じて行っている。	1

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
6.(任意)非資金的支援の活動に関する報告
・4 年目以降の事業継続を見据えて、大学等との連携および資金の獲得方法について支援している。 〇大学との連携支援 ・海の達人については、三重大学を斡旋した結果、学生が授業の一環としてボランティアとして派遣されるようになった。 ・あそびとまなび研究所、㈱FEEL については、九州共立大学の学生がボランティアとして業務の補助ができるように斡旋している。

〇資金の獲得方法の支援

・2022 年 7 月 4 日開催の第 1 回実行団体全体会議おいて、自然体験活動に対する助成団体の紹介や講師を招いてのファンドレイジングについての講義を行い、各実行団体が休眠預金に替わる助成が得られるよう支援を行った。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況

☑自団体のウェブサイトで表示している　☑広報制作物に表示している
☑報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☑その他
→「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
JANPIA の許可をいただき、PO 経費で作製した実行団体への貸出用ライフジャケットの背中に大きくシンボルマークを印刷し貸与した。(大人用 22 着、子供用 54 着制作)

制作したライフジャケット

実際に着用して活動しているところ(非公開)

2.　広報

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

・日本教育新聞　2022 年 8 月 1 日第 6336 号

2.広報制作物等

・休眠預金事業評価及び成果報告書(冊子)　　2023 年 2 月末完成　実行団体等に配布。

3.報告書等

・2022 年度 B&G 財団事業報告書(2023 年 4 月完成)

・2022 年度 B&G 財団トピック集(2023 年 5 月完成)

・2022 年度 B&G 財団活動実績報告書(2023 年 6 月完成)

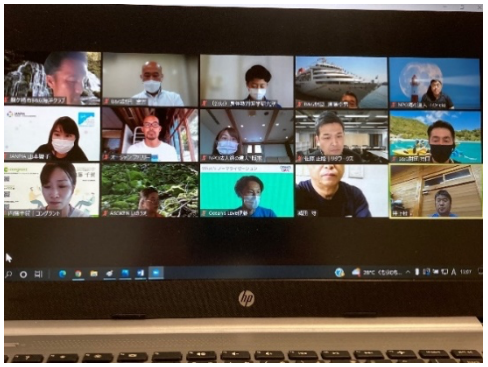
4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

・2022 年度 第 1 回実行団体全体会議
　開催日　　2022 年 7 月 4 日(月)
　開催方式　　オンライン方式(ZOOM)
　テーマ　　4 年目以降の活動に向けて

・2022 年度 第 2 回実行団体全体会議
　開催日　　2022 年 10 月 4 日(火)
　開催方式　　オンライン方式(ZOOM)
　テーマ　　休眠預金事業の終了に向けて

・2022 年度 第 3 回実行団体全体会議(予定)
　開催日　　2023 年 2 月 16 日(木)-17 日(金)
　開催方式　　集合・対面実施　東京・B&G 財団会議室
　テーマ　　各実行団体から 3 年間の成果等の報告及び今後の方針発表・B&G 財団から提言の発表

添付資料



当財団が実行団体 10 団体を対象にリモートで 2022 年 7 月 4 日に開催した 2022 年度第 1 回全体会議の PC 画面。本事業助成終了後の出口戦略の一環として、ファンドレイジングに関しての講義や助成団体の紹介等を行った。JANPIA 担当 PO にもご出席いただいた。

2022 年 7 月に実行団体のオーシャンファミリーが開催したみんなの海遊びプロジェクトに参加した放課後デイサービス「スタジオみらい」の子供が海を楽しんでいる 1 コマ。当財団から貸し出した水陸両用車イスを使用しており、誰もが自然体験を行えるのも本事業の目的となっている。

2022 年 7 月に実行団体の株式会社 FEEL が管理する油谷青少年自然の家で放課後デイサービスに通う子供たちの活動の風景。